

大雄会の 専門家に聞いてみよう!

Daiyukai Health System

50歳から考えたい 前立腺がんの話

男性に多いがんのひとつである前立腺がん。初期には自覚症状がほとんどないことも多く、「自分は大丈夫」と思っているうちに見つかるケースもあります。一方で、検査や治療について正しく知ること、早期発見や自分に合った治療選択につなげることが出来ます。この連載では、前立腺がんの基礎知識から検査、治療、泌尿器科に相談すべき症状まで、泌尿器科医の視点でわかりやすくお伝えします。今回は、前立腺がんとはどんな病気かについてです。

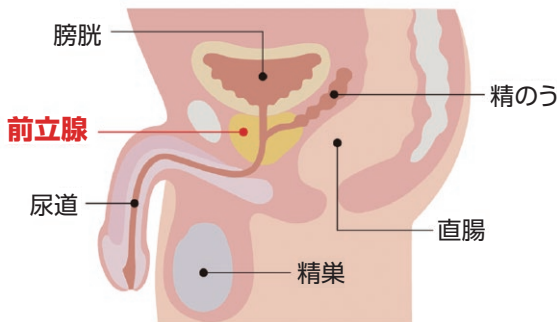
第一回 前立腺がんは、どんな病気?

前立腺は男性だけにある臓器で、膀胱のすぐ下にあり、尿道を取り囲むように位置しています。精液の一部を作る役割を担っています。この前立腺にできる悪性腫瘍が前立腺がんです。

前立腺がんは日本でも年々増加しており、男性で最も多く診断されるがんの一つとなっています。患者さんが増えている背景には、日本人の高齢化に加え、PSA(前立腺特異抗原)という血液検査が広く行われるようになり、症状が出る前の早い段階で見つける方が増えたことがあります。特に50歳を過ぎる頃から増え始め、60〜70歳代で多く見られます。一方で、比較的ゆっくり進行するタイプのもが多く、早期に発見できれば治療によって長期にわたり良好な経過が期待できます。

前立腺がんの特徴として、初期には自覚

男性の骨盤のしくみ (横から見た図)



前立腺は膀胱のすぐ下にあり、尿道を取り囲むように位置しています。

症状がほとんどありません。排尿の異常がないまま検査で偶然見つかることも少なくありません。逆に、尿が出にくい、頻尿、夜間に何度もトイレへ行くといった症状があっても、その原因は前立腺肥大など別の病気であることも多く、症状だけで前立腺がんかどうかは判断できません。

また、進行すると骨へ転移し、腰や背中の痛みなどで見つかる場合もあります。そのため、「症状がないから大丈夫」と考えるのではなく、適切な時期に検査を受けることが大切です。

次回は、前立腺がんを早期に発見するための血液検査「PSA検査」についてご紹介します。



監修

総合大雄会病院 泌尿器科

たか きみ あき

高木 公暁 医師

〈主な資格〉

- ・日本泌尿器科学会泌尿器科専門医
- ・日本透析医学会透析専門医

